

寒冷地向けイチゴ新品種 「豊雪姫（とよゆきひめ）」

－春から初夏の端境期に出荷可能な多収イチゴ－

《端境期にイチゴを生産》

お店にイチゴがたくさん並ぶのは、冬から春（クリスマス前～5月頃）です。ところで、元々イチゴの“旬”はいつ頃か、ご存知ですか？

盛岡を例にとれば、5月が花盛り、6月に収穫のピークを迎えます。でも、6月に青果店でイチゴを見かける機会は少なくなるといませんか？現在、日本のイチゴ栽培は冬から春にかけて果実を収穫する方法（促成栽培）が主流となっており、初夏は端境期となっています（図1）。しかし、この時期にも、イチゴはケーキ用として一定の需要があります。東北や北海道などの寒冷地では、屋外でイチゴを栽培する露地栽培や、その前後のより長い期間収穫する半促成栽培が行われており、近年の端境期である晩春から初夏にかけてイチゴが出荷されています。

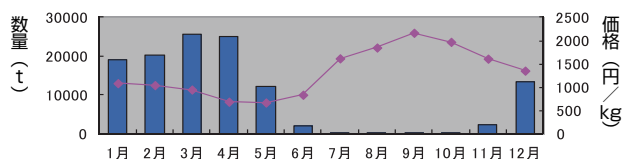


図1／国内主要都市の卸売市場におけるイチゴの卸売数量と価格（2009年）

《新品種「豊雪姫」》

ここで紹介する「豊雪姫」は、国産イチゴの端境期となる5月以降、7月まで収穫できる極晩生の一季成り性イチゴ品種です。「豊雪姫」は、葉が大きくて立ち上がり、大株となり



図2／「豊雪姫」の草姿

畑作園芸研究領域

本城正憲

Honjo, Masanori



ます（図2）。果実は大きく、収量が多い特徴があります。現在、北東北地域においてこの時期に収穫するイチゴとしては、2000年に品種登録された「北の輝」が用いられていますが、「豊雪姫」は「北の輝」よりも収量が多くなります（表1）。

また、「豊雪姫」は乱形果や奇形果が少なく、果実の揃いが優れます（図3）。

果実表面の割れや種子の突出、収穫後の果色の黒変などは見られません。なお、「北の輝」は果実が極めて硬い品種で輸送・貯蔵性に優れていますが、それに比べると柔らかいので、その点は注意が必要です。

「豊雪姫」は、雪の季節を越えて豊かな収穫ができるイチゴ品種であることから名付けられました。北国の豊かさの象徴となるように、との願いがこめられています。



図3／「豊雪姫」の果実

表1／豊雪姫の収量特性（2011年）（栽培地：岩手県盛岡市）

作型	品種名	収穫 始め	収穫 終わり	総収量 (g/株)	商品果 収量 (g/株)	対 北の輝 比 (%)	商品果率 (果重) (%)	1果重 (g)
半促成栽培	豊雪姫	5/12	7/25	649.4	566.0	197	87.2	10.0
(低温カット)	北の輝	5/12	7/25	391.1	287.3		73.5	8.2
露地栽培	豊雪姫	6/12	7/13	358.4	347.8	160	97.0	13.1
	北の輝	6/12	7/9	236.6	217.8		92.1	13.5